

第1号議案

平成16年度執行方針（案）

基本方針

平成15年度も経済環境の悪化（一部回復の兆しがあるものの）がまともにスキー界を直撃し、非常に厳しい事業運営を余儀なくされました。その中において、会員、所属団体、加盟団体の「ご理解」「ご協力」「ご努力」の基で、無事全事業が終了することができました事を理事一同心から感謝申し上げる次第です。

（財）神奈川スキー連盟はここ数年来、事業改革、運営改革、体制改革等を着実に進めてまいりました。その結果は組織運営に確実に反映されつつあります。

言うまでも無く、スキー連盟は会費を頂いた会員を登録し、その費用で組織運営を展開することを基本とする組織であります。従って会員の増減と事業参加者数が極めて組織運営に大きな影響与えると言えます。このことは加盟団体、所属団体に頼るところも大きいわけではありますが、連盟の役割は「事業運営の効率」と参加者にとって「良い事業展開」を行うところにあると言えます。

昨年度はようやく会員減少に歯止めがかかる現象が見え始めました。更に各個別事業の運営を見直し、経費削減を前提に効率化を進めてまいります。

あらたなものとして具体的には競技本部はマスターズ競技者登録を制度化し、ジュニア強化と併せ体制強化を強めます。教育本部は指導員会主催の「特研」を連盟運営とします。指導員資格取得後の個別目標と言う意味で、競技スキー志向の場も提供していきます。

かかる状況下（厳しい環境）ではありますが、「なごやか」「さわやかさ」と言った側面と会員の志向多様化にも応えることも大切であると考えます。神奈川県民のスキーレベルアップと指導員の交流等も考慮し「韓国ドラゴンバレー／冬のソナタツアー」を指導員会と合同で新たに企画し、加えて北海道ツアー、クラブ対抗大会等工夫を凝らしながら進めてまいります。

ハンディキャップスキーの普及・振興に更に努力しますが、運営のための財源確保が極めて重要であります。「TOTO」に期待出来なくなった今、新たに「ゆめ国体記念スポーツ振興基金活用事業補助金」「（財）ヤマト福祉財団障がい者福祉助成金」等へ申請し、活動資金の拡大を図ります。

スノーボードは指導員体制、組織作りと取り組んできましたが、従来のような勢いはありません。運営体制変更を行い、実態にあった運営へと切り替えていきます。

ホームページの開設で「俊敏な情報取得」と「情報開示」を進めてまいりました。更に充実するよう努力します。個人情報保護へも対応します。

今年度は役員の改選期であり、新たなメンバーで運営を担うこととなります。会員諸兄、加盟団体・所属団体役員、顧問・参与、他都道府県、S A J等から多くの熱い、逞しいご意見をたくさん頂いております。退任される役員の情熱も充分受け止めさせていただきました。その上に立ち、新理事一丸となって期待にこたえられるよう奮闘いたします。

最後ではありますが、ウインタースポーツを愛し、ウインタースポーツに魅せられ、ウインタースポーツの魅力に取り憑かれた皆様方とご家族の方々のご多幸も合わせご祈念申し上げます、従前に増してのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

以上